

＝ホスピタリティビジネス関連テーマ＝

ホスピタリティ	今後AI（人工知能）が席卷するであろう将来社会において、ホスピタリティはヒトに求められる最も重要な概念の一つです。また高級旅館の「おもてなし」とはどう違うのでしょうか？
ディズニーランド東京の従業員に対するホスピタリティ	ディズニーランド東京の人事制度は、アメリカ本社の基本的な考え方をベースにして日本独自の工夫を凝らしています。
総支配人のお仕事	ある日、ホテル総支配人の役割をあげてみると11になりました。現役中どこまでやれたかわかりませんが、15年ほど前に総支配人業から足を洗った今、新たに見えることもあります。
海外ホテル開発から学んだこと	マニラ・シンガポール・グアム・ロサンゼルス・ウイーンなど、世界各地でホテル開発に従事してきました。いま振り返ると失敗した事から得たことも少なくありません。
IR（統合型リゾート）の光と影	IRの新設機運が高まっています。地方創生の観点から誘致競争が熱を帯びていますが、まずは売り上げの大きな部分を占めるカジノビジネスの光と影について考えるべきではないでしょうか。
日本に適したホテルマネジメント契約形態	ホテルマネジメント契約の基本は、今から約70年前、コンラッド・ヒルトンがチェーン拡大のツールとして開発しました。我が国の企業風土に即した契約形態を考えます。
帝国ホテルの歴史からホテル業の変遷を学ぶ	約130年前に開業以来、関東大震災、米国ファンドによる買収などの紆余曲折を経て現在も最高級ホテルの地位を保つ帝国ホテルから、近代ホテル産業の歴史を学びます。
オーケストラ指揮者から学ぶホテル総支配人の仕事術	様々な部門スタッフを掌握しなければならないホテル総支配人は、多くの個性的な楽団員を束ねるオーケストラ指揮者から学ぶことが多くありそうです。
松下幸之助の「観光立国論」	第二次世界大戦直後、アメリカ視察旅行団に参加した松下幸之助が発表したのが「観光立国論」です。そこには観光省を設置し副首相クラス観光大臣を任命すべきと書かれています。
中国人観光客の行動パターン	中国は地域によって言葉や風習が大きく異なる巨大国家ですが、それでも買い物や食事など中国人独特の行動パターンが浮かび上がってきます。

苦情対応	『苦情という名の贈り物』という本があるように、苦情を「処理」するのではなく、「解決」し、さらには「喜んで頂く」ことで会社は大きく成長します。
ワインの基礎	佐世保は人口当たりのソムリエ数では最上位クラスといわれています。また国内産ワインの評価も世界的に高まっています。鼻や舌だけでなく、アタマでもワインを楽しみましょう。
テーブルマナー	テーブルマナーを知らないと、不安で美味しい料理も愉しめないし、周りの人との会話もはずみません。今日勉強したことは、すぐ帰りにでも近くのレストランで試してください。
バリアフリー観光からユニバーサル観光へ	身体に障害がなくとも、たとえば左利きの人や、握力の弱いお年寄り、現地の言葉が分からない外国人など、すべてのヒトにやさしい観光ビジネスモデルが求められています。
先進的な朝食ビュッフェ	いまやお客様がビジネスホテルを選ぶキーワードは「朝食」です。「学ぶ」と「真似ぶ」は密接につながっています。様々な先進事例を紹介しますので、よく学び、よく真似てください。
世界経済フォーラム「国際観光競争力ランキング」	毎年ダボス会議を開催している世界経済フォーラムは、100以上の項目に基づいて「国際観光競争力ランキング」を2年に1度発表しています。
ユニフォーム式ホテル会計の基本	ユニフォーム（制服）の洗濯代についての会計処理のことではありません。アメリカで生まれたデファクトスタンダードの会計基準ですが、我が国でも大手ホテル会社はこれを採用しはじめています。
覆面テスト	自社の従業員がお客様にどんな態度で応接しているか、ホテルの社長や総支配人がその真実の姿を見ることはほとんどありません。知りたいと思いませんか？

= ビジネススキル関連テーマ =

失敗力のススメ	私たちは失敗から多くのことを学ぶことができますが、今のところAI（人工知能）は失敗をさせてくれません。
コリン・パウエル 13のリーダーシップ行動規範	黒人初の米国統合参謀本部議長、国務長官であったコリン・パウエルが示した「リーダーに求められる行動規範」を関連トピックとともに学びます。

オーケストラ指揮者から盗め！ リーダーシップ像	海千山千のオーケストラ楽団員をいかに掌握して自分の音楽を奏でさせるか。舞台裏で発揮されるカリスマ指揮者のリーダーシップはビジネスにも十分役立ちます。
ワークエンゲージメント	顧客満足度を高めるためには、従業員の満足が大事であると言われています。ワークエンゲージメントは、従業員満足の概念をもう一歩前に進めた考え方です。
離職を防ぐマネジメント	離職を防ぐためには、インターンシップを含めた募集段階から採用、教育訓練、評価、異動など総合的な目配りが必要です。また会社を辞めていく社員への対応も大切です。
英語の学び方を学ぶ	近い将来、自動翻訳機がもっと発達すれば、外国語を学ばなくてもよくなるのでしょうか？私は外国語を学ぶことで、その国の文化を学ぶことが出来ると考えます。
インターンシップ	単に社員採用の観点だけでなく、早期離職の最大の要因であるミスマッチを防ぐ手立てとして、あるいは若手社員の育成手段としてインターンシップの仕組みを再構築することが求められています。
プレゼンテーション	日本人はプレゼンテーションが下手とよく言われますが、本当にそうですね。「説得」ではなく「納得」をめざすプレゼンテーションのノウハウを伝授します。
SWOT分析	どんな業種でも使い勝手の良いマーケティングツールです。仕組みを学ぶだけでなく、ワークショップを通じて、使いこなせるようになりましょう。「魚の眼」も必要です。
「バランスドスコアカード」	企業の健康診断である「財務三表」は会社の現況しか教えてくれませんが、「バランスドスコアカード」は会社の将来性を表してくれる大変有効なビジネスツールです。
行動心理学入門	最近「行動経済学」でノーベル賞受賞者が出ましたが、ヒトのあらゆる行動には「心理」の裏付けがあります。このことをさまざまな実例で明らかにします。
マーケティング入門	「マーケティング」はいろいろな場面で使われる言葉ですが、その定義を100人の専門家に尋ねると、100通りの定義が返ってきます。成功事例を紹介しながら、その基本を学びます。
コンピテンシーとリテラシー	社員の能力開発は、この二つのバランスがとても重要です。あるコンサルタント会社はこの二つを統合してジェネリックスキルと名付けています。
生産性を高める会議の進め方	「会議」の多さや時間の長さは、会社の生産性に反比例しているのではないのでしょうか？言い換えれば、会議の進め方を変えれば、会社全体の生産性向上につながるのでは？

ビジネスマナー	自己紹介の仕方やメールの書き方など、基本的なビジネスマナーを学ぶとともに、我が国と欧米のビジネスマナーの違いについても学びます。
統計・数字のウソ	「世の中には三種類の嘘がある。嘘と大嘘とも一つ、統計（数字）だ。」これはイギリスのある首相の言葉です。騙されないようにするためにはどうすればよいのでしょうか？
EQ（こころの知能指数）入門	AI・ロボットの開発が進み、私たちはコンピューターが出来ない分野に取り組みざるを得ません。その時に大事なのがEQです。

= 教養・雑学関連テーマ =

カタカナビジネス英語	アルゴリズムやレジリエンシーなど、カタカナ英語が氾濫しています。その意味を実践的にお教えします。
イスラム教とイスラム社会	日本人は「信心」はあっても特定の宗教についての「信仰心」は薄い民族ではないでしょうか。しかし、近い将来、信徒数でキリスト教を上回ると予測されているイスラム教については知っておくべきと考えます。
生活習慣“薬”	故日野原先生は成人病を生活習慣病と名付けられましたが、良い生活習慣は当人の心身を健康にする薬になるのではと考え、これを「生活習慣薬」と名付けました。
メディアリテラシー	新聞・テレビ・ネットなど情報を得るメディアが多様化するにつれて、情報を集める能力よりも、情報の真贋を見分ける能力のほうが大事になってきました。
地方創生	人口減少と地域間格差に直面している我が国にとって、再生の道筋の一つが「地方創生」です。しかし、その道は極めて厳しそうです。
『縮み志向の日本人』	韓国の初代文化部長官、梨花女子大学教授などを歴任した李 御寧（イ・オリョン）が著したこの日本人論は、大変示唆に富むものです。
右と左	わが国では首相からみて左側に副首相（No.2）が座ります。しかし欧米人は、右側に座っている人物が No.2 であると考えます。「日本の常識、世界の非常識。世界の常識、日本の非常識」の一例です。